

## 木のいえ一番ゼミナール木塾 経年で美化する建物を目指して

### 4. 木のいえを長持ちさせる(美観維持) 理解度確認テスト

名前 \_\_\_\_\_ 理解度 \_\_\_\_\_ /100

Q. 動画内で紹介した木のいえを長持ちさせることについて、空欄に適切な語を記入、もしくは選択しなさい。 ※同じ番号が繰り返し出てくる箇所は、最初の番号に記載せよ

1. 木のいえを長持ちさせるために大切なことは、長持ちさせたい気持ちがわくように、美観維持・お手入れをすることである。戸建て住宅でも、集合住宅のように①( )の積み立てと、②( )を行うことが大切である。②( )せず、問題が起きてからの対応では③( )。

#### 2. 耐久性と耐候性

木材保護塗料による再塗装は、色を楽しむことと、表面の劣化＝④( )、⑤( )・⑥( )を抑制することが目的で、木材保護塗料では木材の⑦( )は防げない。⑦( )させないためには、⑧( )を( )させないこと、⑨( )良く、( )状態にすること、危険個所に⑩( )を塗布することが大切である。

#### 3. 塗料の種類と塗装

⑪( )形塗料: 木材保護性能に優れる。再塗装は⑫( )が発生する前に行うか、やや傷んでいる場合は、塗膜をはがして再塗装するので、⑬( )に手間がかかる。⑭( )形塗料: 塗膜による表面保護性能はやや劣るが、無塗装よりはゆっくり変化し、⑮( )が見える。塗装面の⑯( )が自然で、再塗装しやすい。どちらの塗料を使うかは、塗装色の変化や⑰( )の寿命、塗りつぶすか⑱( )を見せるか、再塗装時の手間等で選択する。はじめは⑲( )形塗料を利用し、途中から⑳( )形塗料にすることもある。

木材ゆえの特徴として、再塗装の1回目だけ㉑(2～3 / 4～5)年後に行うとその後の寿命が延びる。1回目だけ短期間で再塗装する理由は、木材の変形により塗装されていない部材の重なり部分や隙間の部分が現われたり、新築のツルツルだった時には塗料が㉒( )に染み込まないが、数年で細かな亀裂が発生し、多量の塗料が染み込むようになるためである。2回目以降の再塗装のタイミングは、塗料の種類や環境によって変わるが、おおよそ㉓(7～10 / 15～20)年ごとにと行うと良い。設計時には、再塗装しやすいように、㉔( )にはしご・足場が置けるよう余裕を持って配置すると良い。

無塗装の場合の美観維持の一例として、軒の出を出さずに設計すると、㉕( )にグレー化することができる。表面の仕上げ板は㉖( )を前提にした納まりにすると、部分交換もしやすい。